

認定NPO法人四国自然史科学研究センターでは、剣山とその周辺部に生息するツキノワグマの調査研究を行っています。得られた研究成果をもとに、保全施策の検討、人とツキノワグマのトラブル防止、生態や現状に関する情報発信など、様々な機関や団体と協力して取り組んでいます。このニュースレターでは、これまでの調査から分かった四国のツキノワグマのことや、共生の取り組み状況について、地域の皆さんに広くお知らせします！



電気柵の設置作業

**生息地での養蜂は  
電気柵とセットで！**

当センターではツキノワグマによる養蜂被害を防止するため、電気柵一式を無償で貸し出しています。生息地内および周辺で養蜂をやっている不安を感じている方、過去に被害に遭った方などがいましたら、お気軽にお問い合わせください。設置と管理をお手伝いします。

問合せは  
こちらまで

四国自然史科学研究センター  
高知県須崎市下分乙470の1  
<http://www.lutra.jp/>  
TEL/FAX 0889-40-0840  
Email [bear\\_info@lutra.jp](mailto:bear_info@lutra.jp)  
担当：安藤・山田



電気柵で使用する  
パワーユニット



巣箱に近づいたツキノワグマ  
が電気柵に触れる瞬間

## ツキノワグマとはちみつ

クマとハチミツと言えば「くまのプーさん」を思い浮かべる方も多いことでしょう。実は、野生のクマもまたハチミツが大好物です。正確にはハチ類（成虫、幼虫、あればハチミツ）が主なターゲットですが、木の洞や土の中にあるハチの巣を見つけて食べるのが知られています。社会性昆虫と呼ばれるハチの仲間には、巣を作り群れで生活します。クマの活動期間のうちで最も食物が不足する夏の時期に、一つ見つければまとまった栄養が得られるハチ類は重要な食物なのです。もともと野生のハチ類を好むクマにとって、蜜をたっぷり蓄えた養蜂用の巣箱は極めて魅力的な存在となります。そのため、生息地の林道などに置かれる巣箱はクマに見つかり中身を食べられてしまう養蜂被害に遭うことがあります。被害を放置すれば、巣箱を食べてもよいものと学習したクマが同じ場所を度々訪れ、被害が継続することも…。

こうした問題グマを「作らない」ためには、被害の初期段階、あるいは被害が心配される場所では被害発生前に、電気柵による対策を行うことが肝心です。

当センターでは、那賀町内の養蜂家3名と共に電気柵による被害防除に取り組んできました。これまで被害防除に協力いただいた方々に感謝申し上げます。同時に、生息地内のより多くの巣箱に電気柵を普及するため、今後さらに多くの方々への協力をいただければ幸いです。

# ツキノワグマとのトラブル回避



## 生息地でのトラブルを避けるために

### 第一に、クマに出会わないための工夫が大切！

#### 人里付近では

◎ツキノワグマは行動範囲が広いので、人間が活動する地域まで出て来てしまうことがあるかもしれません。しかし、その時にクマにとって魅力的な食べ物（放置果樹、放置作物、生ごみ、動物の残滓、蜜蝋など）が無ければ、その場に居続けることはありません。人とクマの適切な距離を維持するためには、集落近くにある誘引物を極力減らし、人間由来の食物に執着する「問題グマ」を作らないことが重要となります。養蜂用の巣箱を設置する際には電気柵を活用することも有効です。

#### 山で活動するときは

- ◎問題を起こすクマを作らないために、残飯などは残さず持ち帰りましょう。
- ◎クマの方に先に自分の存在に気づいてもらうため、クマ鈴などを携帯するか、見通しの悪い藪や林道では声を出す、手を叩くなどで音をたてましょう。

### もしも出会ってしまったら、 とにかく落ち着いて冷静に行動することが重要です。

- 距離が離れている場合： ゆっくりとその場を立ち去る。
- 距離が近い場合： 走ったり大声を出したりして刺激しない。クマから目を離さずにゆっくりと後退。
- 向かってきたら（威嚇突進）： 多くの場合は、クマが突進途中で止まり後退するか目前でUターンをして逃げます。落ち着いて、クマとの間に障害物が来るようにゆっくりと後退。
- 突進してきたら（攻撃突進）： 市販のクマ撃退スプレーを噴射。それでも攻撃を受けた時は、うつ伏せになり急所となる首の後ろを両手でガードするなどして防御姿勢をとる。

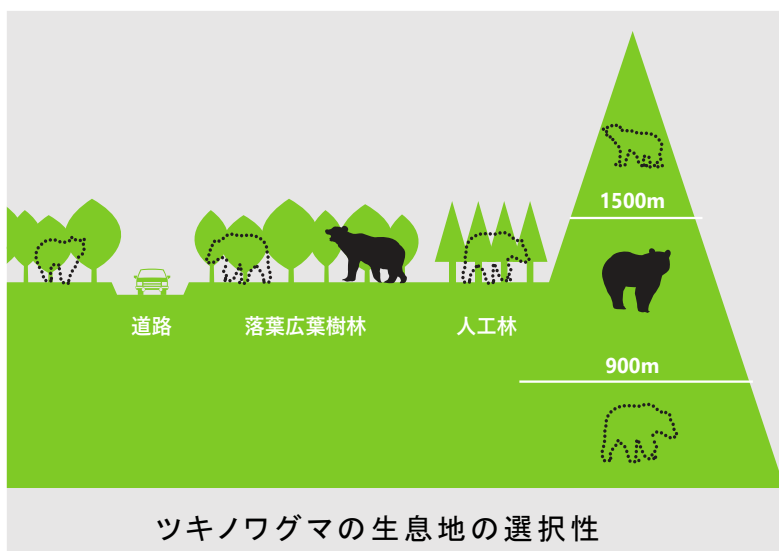
## ツキノワグマは山のどの辺で暮らしているの？

### 利用する環境の特徴

- **落葉広葉樹林**を好んで使う  
人工林よりも**1.4～2.7倍**の選択率
- **900～1500m**の標高を多く使う
- **人里**や**道路付近**は好んで使わない

四国のツキノワグマ4頭を捕獲し、その後1～2年の行動をGPS装置を使って追跡しました。その結果、人里や道路付近を避けて、落葉広葉樹林が豊富な山奥でひっそりと生活している様子が明らかになりました。

ツキノワグマは警戒心が強く臆病な動物です。山ではクマの方が先に人の存在に気づきその場を離れることがほとんどです。見通しの悪い林内などでは音をたてて不意な遭遇を避けましょう。



#### NEXT ISSUE

次回は、ツキノワグマ保全のための普及啓発の取り組みをご紹介します！

認定特定非営利活動法人  
四国自然史科学研究センター  
高知県須崎市下分乙470の1  
TEL/FAX 0889-40-0840  
Email [bear\\_info@lutra.jp](mailto:bear_info@lutra.jp)  
担当：安藤・山田

本ニュースレターは独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成により作成されました。

